

## 産業界との連携に関するご意見への回答

資料6-2

### 第7回協議会までのご質問整理表(研究内容関連抜粋)

#### 2) 研究に関する課題

##### A. 研究内容

<p>・ゲノム医療の開発・推進体制整備について、一部は民間が参画、主体的に分担する等での効率的な方法も検討すべきではないか。</p>	<p>・製薬企業としては、AMED事業の生物統計家育成支援事業や産学官共同創薬研究プロジェクト(GAPFREE、ゲノム解析を含む多層的オミックス解析による医療技術等の開発)などに資金提供を行い、ゲノム情報を用いた創薬研究を実施するとともに、ゲノム医療実現に向けた環境整備に参画している。</p> <p>・また、AMED事業とは別にアカデミアとの共同研究によっても資金を投入している。今後も、産産連携で対応できるものに関しては参画を検討していきたい。</p> <p>・但し、業界全体として一定の負担が求められるような新たな取組は、経営レベルでの可否判断が必要であり、会員各社および製薬協のトップレベルを含めた調整が必要である。</p>
<p>・3大バイオバンク事業においては、企業からの出資等を受け、企業とアカデミアでお互いインセンティブが得られるよう協力して、企業出資も含め、産学コンソーシアムのような形のフレームワークを構築していくのはどうか。</p>	<p>・目的が一致している企業がコンソーシアムなどの枠組みで参画し出資することは可能である。但し、3大バイオバンクはそれぞれ特性があり、個社のニーズも異なるため個別に議論する必要がある。</p> <p>・東北MMB: 現在製薬協では東北MMBと意見交換を行い、同機構が構築中の複合バイオバンクのアクセスポイントを製薬協に設置し企業研究者がデータを試行的に閲覧する準備を進めている。さらに本取組から個別企業と東北MMBによるAdd Onコホート研究に発展することで、企業からの出資が促進されることが期待される。共通の目的を持つ企業同士のコンソーシアムなどの枠組みで行う可能性もある。</p> <p>・NCBN, BBJ: 疾患をベースに構築されているNCBNやBBJに関しては、既に個別企業との共同研究が行われており、企業からの資金が活用されている。更なる利活用に関しては、それぞれのバンク毎に個別で議論する必要があるため、その他のバンクも含めて製薬協内で個別に議論を進めることは可能と考えている。</p>
<p>・企業側の透明性を改善するために、試料提供者および国民に対して、企業におけるデータの利用状況をどの程度伝達できるか検討してはどうか。</p>	<p>・解析目的や試験の詳細など企業秘密に関わる内容を含む場合公開は困難であるが、提供を受けた場合の試料の利用目的は開示可能と考えられる。</p>